I-B1-1　妊娠初期に行う妊娠糖尿病スクリーニングの有用性について

三重大学産科婦人科学教室
前川　有香、杉山　　隆、日下　秀人、豊田　長康

【目的】現在までに提唱されてきた妊娠糖尿病（GDM）の種々のスクリーニング法を妊娠初期および中期に行い、その有用性について比較検討するために臨床研究を行った。【方法】糖尿病と診断されていない妊婦を対象に、インフォームド・コンセントを得たうえで妊娠初期および中期に随時血糖・空腹時血糖・HbA_{1c}の測定、一般検尿による尿糖検査・50gGCT等のスクリーニング検査と75gOGTTを施行し、周産期予後に関するデータを収集した。【成績】GDMと診断された患者は749名中22名であり、そのうち14名（63.6%）は妊娠初期に診断された。【結論】今回の検討では、妊娠初期に発見し治療を開始したGDM症例の周産期予後は、帝王切開の頻度以外は正常群と同等であり、妊娠初期のスクリーニングの重要性が改めて示唆された。